

2 中高連携授業変革の歩み

(1) 神岡町立神岡中学校の実践

< 授業実践 >

授業実践に向けての構え

昨年度の実践の成果であった、「英語に苦手意識をもっていた生徒の中に生まれつつある、話すことを中心とした活動に意欲的に取り組む姿」を発展させていきたいと考える。そのために、第1回の授業実践では、主にコミュニケーションを図る活動をどのように仕組むか、単元の中で言語材料の定着を図る活動などとのバランスを考え、学習過程を工夫するという点に力を入れる。第2回目の授業実践では、めざす姿をもとに観点別の評価規準を明らかにした指導計画の作成をめざし、評価を工夫していく。つまり、自分の伸びや次のめあてを意識できるような評価の在り方を検討していく。このような構えで、英語科2名で2回ずつの授業公開に取り組むことにした。

第1回授業交流研究会

【日時】 平成14年6月11日(火)

【公開授業1】

- ・ 単元名 Unit 2 Yumi goes abroad (New Horizon)
- ・ 授業学校・学級 神岡町立神岡中学校 2年2組
- ・ 主な授業内容

「話すこと」(イ)「自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと」を指導事項の中心とし、「ツアーガイドになってお客さんにわかりやすく説明しよう」を課題として授業を展開した。楽山大仏の大きさや由来などを相手に正確に伝えるために、大切なことを強調して話す(声の大きさや繰り返し)、写真などを示して相手の理解を助ける、相手の理解を確かめながら話を進めるなどの技能の定着をねらった。グループの中で、ガイドとお客さんの役割を交代し、アドバイスをし合いながら複数回交流して相互評価をする方法を取り、全体発表も行った。

【公開授業2】

- ・ 単元名 Unit 2 Don't Throw It Away (New Horizon)
- ・ 授業学校・学級 神岡町立神岡中学校 3年3組
- ・ 主な授業内容

「話すこと」(イ)及び(エ)「つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして、話が続くように話すこと」の2つを指導事項の中心とし、「レポーターになってお客さんにわかりやすくインタビューをしよう」を課題とした。大切なことを強調して話す、絵や物を示しながら聞き手の理解を助けながら話す、また相手の理解を確かめる質問をしたりすることをねらい、ペアでの活動を中心として班の中で評価し合うようにした。

【授業研究会】

- ・ 状況設定など表現の練習の場が工夫され、生徒の活動が多く活発である。繰り返し練習が大切にされ、ほぼ All English の授業で、生徒たちは積極的であった。
- ・ 一方で、All English での授業ではどのくらいの生徒が理解しているのか、また理解をできない生徒への支援の在り方について明らかにする必要があるのではないかと。生徒間の力の差にどのように対応しているのか、書くことへの指導はどのように行われているのか、さらに知りたいところである。

- ・中学校としては、到達度の低い生徒たちに対して、長期休暇などを利用して指導しているが、十分には行えない現状がある。特に書くことについては、単元の構想の中で書くことが苦手な生徒への対応を考えて実践している。

第2回授業交流研究会

【日時】 平成14年10月18日(金)

【公開授業1】

- ・単元名 Unit 2 南半球からのメール (New Horizon)
- ・授業学校・学級 神岡町立神岡中学校 1年3組
- ・主な授業内容

「話すこと」(イ)及び「聞くこと」(ウ)「質問や依頼などを聞いて適切に応じること」を指導事項の中心として、それぞれ「自分の考えをメモを見ながら話すことができる」「相手の質問を理解し、新しい情報を加えながら答えることができる」力を身に付けることができるよう、Guess Who Quiz の形式で「解答者はたくさん質問してクイズの答えを当てよう」を課題として授業を展開した。4人グループを活用し、評価の観点を明示して相互のアドバイスと評価活動を工夫した。

【公開授業2】

- ・単元名 Unit 4 Homestay in the United States (New Horizon)
- ・授業学校・学級 神岡町立神岡中学校 2年1組
- ・主な授業内容

「話すこと」(イ)を指導事項の中心とし、「大切なことを強調して話す」「指をさしたり身振りで聞き手の理解を助けながら話す」、また「相手の理解を尋ねて確かめ、相手が話しやすいように相づちの表現を用いる」という力の定着をねらい、「相手にわかりやすく正しく道案内をしよう」を課題として授業を展開した。4人グループを活用し、評価の観点を明示して、それに基づいての相互アドバイスと評価活動を取り入れた。

【授業研究会】

- ・コミュニケーション能力にはいろいろな要素が含まれるが、授業では自分の思いを少しでも伝えようとする活動が柱になればならない。その意味で、生徒たちが本当に伝えようという目的をもって向かっていたかということ、やや曖昧な部分がある。
- ・活動への目的意識、必然性という点で、全体からペアへの活動に移る場面でも、もっと細やかなステップが構築されるべきである。
- ・ペア活動でも、モチベーションをどう高めるかが課題であり、それぞれが違うレベルの中で、今の活動で何が良かったのか、何が悪かったのか絶えず生徒に問いながら意識付けを図らなければならない。
- ・生徒が学習に向かおうとする姿勢が確かにある。それは、どんな活動でどんな姿を生み出すのかという評価規準が持たれているからであり、基本的な指導過程がしっかりしているからであると言える。
- ・生徒は落ち着いてしっかりと言語活動



に向かう姿があるが、課題に対して身を乗り出して積極的に向かうパワフルさが求められる。そのためには、一層ねらいが焦点化されるべきであり、指導事項 - ねらい - 課題 - 言語活動 - 評価の5つが一直線上にあるようによく吟味したい。

<グローバル・スタンダードによる英語力診断>

ケンブリッジ英検 7月実施

受験者 スターターズ 23名(2年生16名、3年生 7名)

ムーバーズ 29名(2年生 4名、3年生25名)

フライヤーズ 1名(3年生1名)

- ・2回実施した昨年と比べるとやや人数は少なくなったが、意欲的に挑戦してみようとする生徒が多くいた。
- ・昨年と比べムーバーズでやや評価が悪かったが、Speakingの成績は高く、「話すこと」に重点を置いてコミュニケーションな活動を中心とした授業を積んできた成果と言える。
- ・Reading、Writingの力を一層伸ばしていくために、授業中での「書くこと」の習慣化、発展的な「読みもの」などの対策を考えていきたい。

<イマージョン・プログラム>

英文図書(英字新聞)、英語CD-ROMを購入し、活用を図った。

- ・Student Timesを図書館に設置し、多くの生徒が自由に閲覧した。また、選択の授業で掲載記事を話題として取り上げることを行い、効果的であった。
 - ・CD-ROMから授業で使える写真や絵をパソコンに取り込み、いつでも活用を図ることができるようにした。また、選択授業でもそれを活用した。
- 外国人講師を招いての英語(英会話)授業の試み

<成果と課題>

- ・コミュニケーションな言語活動をめざし、授業を変革しようと loudspeaker activity など指導過程を大胆に工夫された高等学校の実践から多くを学ぶことができた。中学校としても、今後もコミュニケーションを図る言語活動のアイデアを一層探り、学習過程の工夫が必要である。
- ・コミュニケーションを図る活動を効果的に行う方法として、「4人グループの活用」を確立してきたが、言語活動の必然性という点でさらに細かなステップを工夫しなければならない。
- ・評価の在り方を探り、評価規準をもとに、自分の伸びや次へのめあてがつかめるようにと、評価の観点を示して実践をしてきた方向は今後も大切にしたい。さらに積極的に生き生きとコミュニケーション活動ができるために、指導事項からねらいを一層明確にし、課題 - 言語活動 - 評価の一体化を目指す。
- ・ケンブリッジ英検の成績からもわかるように「読むこと」や「書くこと」の力をさらに高めていく必要がある。「聞くこと」「話すこと」にどのようにつなげていくか検討し実践するとともに、高等学校のように書くことの基本としての単語の書き取りを授業の中に位置付けることも一つの試みとして実施し始めた。時間の生み出し・配分をさらに検討していく。
- ・2年間の交流の中には、生徒指導的な観点も多々あり、生徒の学びの実態などについても多くの意見交流ができた。今後も、指導方法や評価の在り方などを柱に、学び合う交流を図っていきたい。